

令和8年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城南中学校

1 自己評価書

教育目標 自立と共生の力を持つ生徒の育成

基本方針	1 自主・自律の精神に富み、活気ある本校教育の伝統を継承し、主体的な教育活動の展開により、自信と誇りを持ち、可能性に挑戦する生徒の育成に努める。 2 保護者や地域社会と連携した生徒指導に努めると共に、時代の変化に対応できる確かな学力と豊かな感性を持ち、他者を尊重することのできる生徒の育成に努める。 3 地域と教育理念を共有し、12小学校区の人、こと、もの、情報を効果的に繋げ、地域と共にある学校を実現することで、郷土愛を持ち社会のために貢献できる生徒の育成に努める。
本年度重点目標	1 生徒会活動の活性化と生徒指導の充実 2 生きる力を育む学校の推進(知・徳・体の充実) 3 安全・安心な学校の推進 4 家庭・地域から信頼され誇りとされる学校の推進 5 働き方改革の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	後期ののみ
				・具体的な対策の実施	A	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
			文章を正確に読み取る、情報を整理・活用するなど読解力の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	一人1台端末やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
			家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・児童生徒アンケート	A	B
				・教師アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・保護者アンケート	C	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・教師アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・保護者アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	C	
				・教師アンケート	B	
	(成果と課題)					
○ 計算能力や基礎学力の向上が見られた。						
○ 全職員が椿原方式を共通理解した状態で年度をスタートできた。						
○ 丁寧な教材研究により、分かりやすい授業を心掛けた。						
○ 対話的な学習や、実験・考察を通じた深い学びに成果が表れている。						
○ 授業冒頭に復習を取り入れることで、欠席した生徒への支援を行った。						
○ 毎回のプリント作成や指導により、生徒全員のノートが同じクオリティーになった。						
○ 保健体育でのICT活用が、苦手な生徒に対して有効だった。						
○ 授業前後に基礎基本を行うことで、知識が定着してきた。						
● 課題を提出できない生徒がいる。						
● 学習意欲を継続させることが困難である。						
● テストの結果、定着が十分でない箇所が見られた。						
● 学力低位の生徒に変化の傾向が見られない。						
● 生徒自身がノート作成において工夫する場面が少ない。						
● 応用する力の習得が想定よりも低い。						
(改善策等)						
・家庭学習への意欲を高めるための動機付けを行う。						
・復習を適宜取り入れながら、学習課題の解決を図る。						
・学力が低位の生徒が自己肯定感を持てるような授業を展開する。						
・生徒がノートを工夫できるスペースの確保や、個々の工夫が見えるプリントを作成する。						
・ICT活用におけるタイピング速度などの基礎スキルの個人差を解消し、授業進行への影響を抑える。						
・定着した基礎基本の力を土台として、思考力を育む授業構成を構築する。						

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価		
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A.		
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして不登校対応に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B		
			③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B	A		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B			
	(成果と課題)							
	○ 粘り強く関わることで、生徒同士の人間関係の改善が見られた。 ○ 制服や髪型のルール変更が円滑に進んでいる。 ○ オンライン授業の実施により、登校が難しい生徒の学習機会を確保し支援できた。 ○ 日常的な働きかけにより、話を聞く姿勢にメリハリをつけることができた。 ○ 生徒と関わる機会を増やしたことで、生徒間のトラブルに迅速に対応できた。 ○ 学年部内で連携し、一人ひとりの様子をきめ細かく見ることができた。 ● 生徒自身の力でトラブルを解決する力が不足している。 ● 学校の指導範囲を超えるようなSNSトラブルが多く発生している。 ● 規範意識を高めるためには、今後も根気強い指導が必要である。 ● 学年内の連携は密だが、他学年との連携が弱い。 ● 教員によって生徒への関わり方に差があるため、その差を埋める必要がある。							
	(改善策等)							
	・生徒が自力で問題解決に向かえるよう、継続的な支援と指導を行う。 ・保護者や関係機関との連携を強化し、学校内(学年・学級など)だけの対応にならないよう留意する。 ・職員朝礼などの場をより有効に活用する。 ・指導する生徒が特定の個人に固定化されないよう配慮する。 ・指示されて動くのではなく、生徒が常に意識を持って行動できるような方策を検討する。 ・業務における時間の使い方を見直し、効率化を図る。 ・常に学年団全体で共通認識を持ち、一貫した対応を徹底する。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革(ワーク・ライフ・バランスの向上)に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
	(成果と課題)					
	○ 以前よりも帰宅時間が早まり、自分の時間を確保する余裕が持てるようになった。 ○ 部活動の負担軽減が進んできている。 ○ 休暇取得時の校内サポート体制が整っている。 ○ 学年部内で業務を協力・分担することで、過度な負担を感じずに取り組んでいる。 ○ 先輩教員に相談し、情報を共有することができている。 ● 自分のペースで仕事を進めることが難しいと感じる時がある。 ● 全体として業務量が減ったとは言えず、一部の教員に業務が偏り過多になっている。 ● 部活動計画の見直しによる勤務時間外労働の削減が、思うように進まなかった。 ● 取り組みによる変化を実感できていない現状がある。					
	(改善策等)					
	・教員一人一人が計画的に仕事を進める。 ・心身や家庭への大きな負担となっている寮直業務のあり方を見直す。 ・多岐にわたる業務をより効率的に行うよう心掛ける。 ・長時間勤務の是正に引き続き取り組む。 ・土曜日の勤務時間が長くなる課題に対し、CCなどを活用した新たな取り組みを検討する。 ・無駄や無用な業務、および「今までやってきたから」という理由だけで継続している業務を削減する					
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題)					
	○ 保護者と適宜連絡を取り合い、地域からの提案や要望に対しても丁寧に対応できた。 ○ LINEを活用することで、保護者と簡易かつスムーズに連絡を取ることができた。 ○ 週1回程度の学級通信の発行やホームページの更新により、学校での生徒の様子を家庭へ効果的に伝えることができた。 ○ 家庭との連携を大切にすることで、学校の取り組みへの理解を深めることができた。					
(改善策等)						
・継続して連携していく。 ・生徒や教職員の負担が大きくなりないように留意する必要がある。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満